フイリピン滞在記 ⑥---Baguio（バギオ）の芸術活動を見て回る

為我井輝忠

フイリピンに来て６か月が過ぎた。この間、日本語を教えることはもちろんであるが、かなりの時間を旅行に費やしてきたのではないだろうか。金曜日、土曜日そして日曜日と３日間連続で休みが続くので、何度も近辺や周辺の観光地や友人のところに出かけたりした。それ以外にも祭日や長期休暇の時を利用して出かけることも多い。

そうした中で一番多く出かけたところはバギオである。もうすでに４回行った。バギオは私が住むサン・フェルナンドからバスで２時間ほどのところにあり、マニラに出かけるのに７時間以上かかるのを考えると、はるかに行きやすい。バギオに出かける理由はいろいろあるが、ここは日本の軽井沢のような高原都市で涼しいという点や芸術的な雰囲気があり、ギャラリーや美術館が数多くあって、フイリピンの芸術活動を知ることが出来るという点もある。更にバギオに来ると、いつも清浄な空気と都市の喧騒から逃れてほっと出来る空間がある。

今回、知人から「iNima２」という版画展があるので行かないかと誘いを受け、インターネットで詳しい情報を見ると、ルソン島北部（私がいるところであるが）のコルディラ地方に住む狩猟民族を描いた作品の展示をしているとのことであった。アーティストはLeonard Aguinaldo（レオナルド・アグイナルド）という人で、まだ40 代の若い芸術家である。実は、私自身フイリピンの芸術に関しては全く知らない状態で、最近マニラの美術館で近現代の様々な作品を見たばかりで、まだフイリピン全体の状況すらつかんでいない。

映画に関しては、これまで日本にいた時にアジア映画祭で何本か見たことがあり、芸術的に優れた作品を見たことを覚えている。何人かの監督や俳優にお目に掛かったこともある。それなりのイメージを持っている。

展覧会の会場となったMaryknoll Ecological Sanctuary（メアリーノル・エコロジカル・サンクチュアリー）

しかし、絵画や版画に関しては全く未知の分野で、強い興味を感じるとともに期待外れになるかもしれないというような不安もあった。いざ会場に足をはこんでみると、そんな危惧はすぐ消えてしまった。会場に展示されていた作品は30点ほどであった。どれも北ルソンのコルデリア地方のユネスコの世界遺産に登録されている棚田（ライス・テラス）のある地方に住む狩猟民族のイフガオ族の人々の生活や習慣、文化を描いたもので、白と黒を基調とした作品ばかりである。いくつかの作品を紹介しているので、ご覧下さい。作品はイフガオ族の人々、彼らの日常生活、祭り、風景、音楽、狩猟等描いている。こうした作品を見ていると、彼らの住んでいる地域を訪ねてみたくなった。

作品を見ていると、竹で作られた彼らの民族楽器から微かに彼らの歌や踊りが聞こえてくるような気がした。会場の静かな雰囲気と共に作品の持つ静穏な様を見ていると、時間を忘れるほどである。どのくらい見ていただろうか。１時間以上は見ていたものと思う。この日はアーティストにはお会いできなかったが、いずれお会いし、お話を聞きたいものと思う。

長い時間の後ふと我に返り、外に出て、会場のあるMaryknoll Ecological Sanctuary（メアリ

ーノール・エコロジカル・サンクチュアリー）を散策してみた。広大な敷地に環境教育のための自然を生かした庭園や施設があり、こちらも十分自然を楽しむことが出来るようになっている。宿泊施設もあるようなので、１日滞在し、ゆっくりするのもよさそうである。この日は素晴らしい作品をいくつも鑑賞することが出来て大いに満足し、帰路に着いた。

Binuron（イフガオ族の住居）

Adangyam（イフガオ族の金持夫婦）

Bumbaki（種族の歴史を語る語り部）

Gangya（ドラムをたたく男）